

第 20 回 滋賀県国民健康保険運営協議会の結果概要

1. 日 時 令和 6 年 1 月 31 日（水）15 時 00 分から 17 時 00 分まで
2. 場 所 滋賀県危機管理センター 1 階 会議室 1
3. 出席委員
寺井委員、深尾委員、岡本委員、藤井委員、高橋委員、諸頭委員、柳本委員
高山委員、足立委員、瀬古委員、廣瀬委員、岸田委員、寺村委員
4. 欠席委員
黒川委員
5. 事務局職員
大岡健康医療福祉部長、谷医療保険課長、稲葉参事、宇野参事（健康寿命推進課）、山田課長補佐、小林主幹、田中主査、亀井主任主事
6. 会議の内容
(1) 令和 6 年度 国民健康保険事業費納付金等の算定結果について
(2) 第 3 期 滋賀県国民健康保険運営方針の策定について
(3) 第 2 期 滋賀県データヘルス計画の策定について
7. 主なご意見等

(1) 令和 6 年度 国民健康保険事業費納付金等の算定結果について

- 医療費が高くなれば保険料に跳ね返ってくるので、医療費の伸びを抑えることは重要だと思うが、どのように働きかけていくのか？
→「医療費適正化計画」に基づく取組と保険者努力支援制度にかかる取組の両輪で被保険者の方々の負担の抑制に取り組んでいく。
- 今後は標準保険料を平準化していくので、今回の伸び率がピークと理解して良いか？
→特定の市町が県平均より高い伸び率となっている理由は、令和 5 年度まで実施していた激変緩和の影響であるため、今後は特定の市町のみが極端に上がることはないと考えている。
- 栗東市の標準保険料が他の市町よりも飛び抜けて高いのはなぜか？
→納付金の市町への按分基準に「所得金額」があるが、栗東市は所得水準が他の市町よりも高いため、標準保険料も高い。
- 今後の標準保険料の伸び率はどれくらいになると予測しているか？
→過去の医療費の伸び率である 3 % 弱になることを目指したい。

- 被保険者の方々の安心感を高めるために、何か国への働きかけなどはおこなっているか？
→知事会等を通じて、国保への交付金の増額などを要望している。
- 各市町の保険料の賦課割合の現状は？
→応能割と応益割の割合はおおむね1対1。
- 過去2年間の伸び率により推計した医療費推計の結果 3.27%の伸びが適正かどうかの判断が正直難しい。

(2) 第3期 滋賀県国民健康保険運営方針の策定について

- 後発医薬品の供給不足問題がまだ片付いていない段階で、ここに挙げてしまっても良いのかと疑問に感じる。
- 医療DXについてはまだプラットフォームも何もできてなくて、課題がたくさんあるのに、少しも進んでいない。
- 「納付金の精算制度」の現時点の検討状況等について教えていただきたい。
→制度導入のシミュレーションを市町の協力を得ながら実施するなど、統一までの残り3年間をかけて課題の解決に向けて取り組んでいきたい。

(3) 第2期 滋賀県データヘルス計画の策定について

- 保健指導の方も健診と同様の観点で周知・啓発に取り組んでいくべきかと考える。
- 保健指導の市町間の格差が大きいことの原因分析とそれに対する対策が必要になってくるかと思う。
- 特定健診をまったく受けていない状態で受診に来られる方がどれだけいるか把握できていないので、この部分を把握することが非常に重要なことだと思う。
- マイナンバーカードができて医療DXを進めていくのであれば、それを使ってがん検診の登録制を導入して全体を把握できるようにすべきだ。
- 中小零細企業では、仕事を休んで健診に行くことはなかなか難しいのが現状だ。
- 肥満症については、単に啓発だけでは解決できない。重要なのは子どもの頃からの教育だ。
- 喫煙は万病の元で、医療的な面からしっかり取り組めるよう対策を強化していくことは大変重要なことなので、この計画においてもしっかりと取り入れる必要があると思う。

以上